

平成 21 年度～23 年度 習志野市事務事業評価表

1. 事務事業基本情報

事業名	No.1 行政評価システム事業			担当課	企画政策課			予算費目名	款	項	目		
								02	01	08			
事業概要 及び目的	行政活動を事務事業や施策の単位で評価し、事業の見直しや予算編成、計画立案時に活用する。また、評価結果の公表などを通し、外部の視点から検証機会を設ける。 ＜期待される効果＞ (1) 効率的、効果的な事務事業への見直しと職員の意識改革の推進 (2) 施策・事務事業間調整と適切な行政資源（予算、人事等）配分の実現 (3) 協働社会の実現に向けた市民への情報提供（アカウンタビリティ）			成果 目 標	成果指標	施策評価の導入（実施）（H22.7 見直し） 活用される事務事業評価の見直し			年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
					計画値	事務事業評価表の見直し 20%			予算額（単位：円）	1,146,000	504,000	631,000	1,000,000
						外部評価の実施 40%			決算額（単位：円）	997,500	504,000	630,000	
						担当課ヒアリングの実施 20%			従事職員数	3	3	8	
			財政課による 2 次評価 20%										
事業の 位置づけ	章 1	豊かな人間性と暖かさを育むまち		★左記施策（号）との結び付き 行政評価を実施することで、各部局等での実務状況を的確に把握し、今後の行政運営体制の見直し、民間活力の導入等に関する行財政改革の推進を図る上で、貢献できると考える。			従事延べ日数	117	117	130			
	節 4	地方分権時代を踏まえたまちづくりの推進					民間活力の導入	現状は？：■実現している □将来可能性はある □将来困難だが可能性はある □余地なし 相手は？：■市民 □市民活動団体 ■企業・学校等 形態は？：外部評価（市民） 委託業務契約（企業）					
	項 1	地方分権時代を踏まえたまちづくりの推進											
	号 2	行財政改革の推進											

2. 進捗状況

				平成 21 年 7 月 21 日記入					平成 22 年 7 月 9 日記入					平成 23 年 4 月 20 日記入				
年度	21 年度評価（20 年度実施した事項についての評価）				22 年度評価（21 年度実施した事項についての評価）				23 年度評価（22 年度実施した事項についての評価）									
実施計画上の予定	実施	実施計画の予定 年度終了後	実施	★継続している事項、 未着手事項がある理由	実施計画 上の予定	実施	実施計画の予定 年度終了後	実施	★継続している事項、 未着手事項がある理由	実施計画 上の予定	実施	実施計画の予定 年度終了後	実施	★継続している事項、 未着手事項がある理由				
完了した事項	<ul style="list-style-type: none"> 105 事業の事務事業評価を実施。 各部との個別ヒヤリングを実施。（新規） 21 年度予算編成資料として、評価表を財政部へ提供。 各部局の評価表活用状況を把握するため、全職員を対象にアンケート実施。（新規） HP に評価結果を公表。 			<ul style="list-style-type: none"> 課内で十分な検討をずる時間が持てず、21 年度へ継続、あるいは、未着手となってしまった。また、外部評価については、今年度エンジンルームの取り組みである「事業仕分け」を代用した。 	<ul style="list-style-type: none"> 後期基本計画、実施計画の進行管理を図り、職員に活用される行政評価を目指し、事務事業評価表の見直しを実施。 101 事業の事務事業評価を実施。 22 年度予算編成資料として、評価表を財政部へ提供。 外部評価「市民が見る事務事業評価」を試行。（新規） HP に評価結果を公表。 施策評価導入に向けた協議。（施策評価の必要性） 職員、市民に活用される事務事業評価を目指す。 			<ul style="list-style-type: none"> 一つの施策に関係部署が複数あるなど評価作業が複雑になる。施策評価を取組んでいる近隣市では、所期の目的を達成できずに取りやめたことから、施策評価の導入を見送ることとした。 			<ul style="list-style-type: none"> 109 事業の事務事業評価を実施。 23 年度予算編成資料として、評価表を財政部へ提供。 外部評価「市民が見る事務事業評価」を実施。 HP で評価結果を公表。 			<ul style="list-style-type: none"> 評価結果をより活用できるように、マネジメントシステムの構築を行う必要がある。 				
継続している 事項	<ul style="list-style-type: none"> 施策評価導入に向けた協議。（施策評価指標の作成） 後期基本計画、実施計画の進行管理も図る必要あり。 										<ul style="list-style-type: none"> 職員、市民に活用される事務事業評価を目指す。 							
未着手事項	<ul style="list-style-type: none"> ①事務事業評価表の見直し。 ②外部評価の実施。 										<ul style="list-style-type: none"> 全職員を対象にアンケート実施（評価表の見直し効果） 							
改善案	<ul style="list-style-type: none"> ①職員に活用される事務事業評価表の提案。 ②エンジンルームで実施した「事業仕分け」を参考として、外部評価の手法を見出す。 			成果指標	実績値	達成率	<ul style="list-style-type: none"> 「市民が見る事務事業評価」に参加された市民評価者の意見を参考に実施手法を見直す。 全職員を対象にアンケート実施（評価表の見直し効果） 			成果指標	実績値	達成率	<ul style="list-style-type: none"> 後期第 2 次実施計画の評価に向けて、PDCA サイクルの見える評価表を作成する。 			成果指標	実績値	達成率
					実施	20%				実施	60%				実施	80%		

3. 今後の方向性

※課内協議を経て管理職が記入してください。

				平成 21 年 7 月 24 日協議実施					平成 22 年 7 月 27 日協議実施					平成 23 年 4 月 28 日協議実施			
今後の方向性	成果の方向性	拡充	○							成果の方向性	拡充	○					
		現状維持									現状維持						
		縮小									縮小						
		休廃止									休廃止						
			休廃止	縮小	現状維持	拡充	コストの方向性					休廃止	縮小	現状維持	拡充	コストの方向性	
	★上記を選択した根拠			★上記を選択した根拠						★上記を選択した根拠							
	8 カ年に亘ってコンサルに委託しつつ本市の行政評価システムを運用してきたが、有効性・適切性の面からの検討を進め、委託料を削減しつつ職員・市民に活用される行政評価としていかなければならない。			外部評価を定着させると共に、職員、市民に活用される行政評価としていかなければならないため						外部評価の拡充とともに、評価表を活用できる環境を整え、行政の効率化等を目指すため。							
方向性を実現するため実施すること（改革案）	<ul style="list-style-type: none"> 基本計画、実施計画の進行管理としての事務事業評価の活用 57 施策の成果指標の設定 			<ul style="list-style-type: none"> 習志野版外部評価の定着 決算委員会への評価結果資料の提出 						<ul style="list-style-type: none"> 評価内容を翌年度へ反映するため、評価時期の前倒し。 職員の意識改革への活用。PDCA サイクルを浸透させる。 							
前年度改革案の実施状況	□実施 □一部実施 □検討中 □その他 ★実施以外は具体的に記載してください。職員に活用される行政評価に向けて、庁内アンケートを実施するなどして課題の把握に努めた。			□実施 □一部実施 □検討中 □その他 ★実施以外は具体的に記載してください。施策評価へのステップアップは、効果が不透明なことからしばらく見送ることとし、進行管理としての事務事業評価の活用にも努めた。						□実施 □一部実施 □検討中 □その他 ★実施以外は具体的に記載してください。							